

EX (絶滅)

翼手目 キクガシラコウモリ科

ミヤココキクガシラコウモリ

Rhinolophus pumilus miyakonis Kuroda, 1924

英名: Miyako least horseshoe bat

カテゴリー判定基準: ②

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
R	CR	CR

日本固有亜種（種全体として日本固有種）

沖縄島に生息するオキナワコキクガシラコウモリ (*Rhinolophus pumilus pumilus*) の亜種とされているが、標本が1個体も残されておらず、分類学的検討ができない現状である。しかもタイプ標本さえも残されていないので、かつての生息洞に残されているグアノの中などから遺骸を探し出し、本亜種の形態的特徴をまず明確にすべきであろう。

The Miyako least horseshoe bat, *Rhinolophus pumilus miyakonis*, is endemic to Miyako Island (159 km²) of Okinawa Prefecture. There have been no reported sightings of this bat since an observation of a few bats in 1971. The area of this island is mostly agricultural land, so this species seems to be extinct.

基礎情報

■形態 標本がまったく残されておらず、これまでに4頭の資料しかなく、近隣の沖縄島、および石垣島・西表島に生息する近縁種との形態的差異は明確でない。現在知り得る測定値は前腕長38~39mm、頭胴長36~37mm。体毛は褐色系であるが、色がやや淡い。

■分布域 宮古島 (159km²) に分布していた。宮古諸島のひとつ、伊良部島にも分布していたと思われる。

■生息環境 不明。宮古島では現在、森林はごく一部しか残っておらず、島の大部分は畑地や牧草地になっている。

■生活史 不明。

絶滅に至った経緯とその要因

森林伐採 (11)、土地造成 (23)。餌となる昆虫類が年間を通して発生する森林の激減が第一に挙げられる。続いて昼間のねぐらである洞窟の埋め立て、さらには環境条件が大幅に変化する観光鍾乳洞などへの改変や洞窟の周囲の農地化などによる洞内の乾燥化が考えられる。

特記事項

1924年に記載されたが、1971年調査で10個体

足らずが確認されて以後、1977年、1979年、1985年の調査では発見されていない。著者は1996年に2度調査を行ったが、やはり確認できなかった。またその後も生息に関する情報は全くないので、すでに絶滅しているものと思われる。本亜種は、タイプ標本が太平洋戦争時の空襲で焼け、残っていない。さらにその後、誰も本亜種の標本を作成していないので、世界中のどこにも1点の標本も保管されておらず、その形態的特徴も詳細が不明である。そこで、かつての生息洞にまだ残されているグアノの中から遺骸を至急探し出して、後模式標本として登録しなおすことが求められる。

参考文献

- 阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 2008. 日本の哺乳類改訂2版. 東海大学出版会, 秦野. 206pp.
- Kuroda, N., 1924. On new mammals from the Riu Kiu Islands and the vicinity, Pub. by the author, Tokyo. 14pp.
- 前田喜四雄, 2001. 日本コウモリ研究誌－翼手類の自然史. 東京大学出版会, 東京. 203pp.
- 日本哺乳類学会編, 1997. レッドデータ日本の哺乳類. 文一総合出版, 東京. 279pp.
- 下謝名松栄, 1980. 先島（宮古諸島・八重山諸島）の洞窟動物. 沖縄県洞窟実態調査報告III, pp. 103-143. 沖縄県教育委員会.

執筆者：前田喜四雄（奈良教育大学 名誉教授）